

優勝記念パレード

令和4年1月20日(木曜日)11時30分～

第30回全国小学生バドミントン選手権大会

松下一誠君 優勝 オリンピックへの第一歩

「オリンピックで金メダルを取れる選手になりたい」そう話す松下一誠君は「第30回全国小学生バドミントン選手権大会」で見事初優勝を飾りました。1月20日、JR白糠駅から役場までの約600mをコースに優勝パレードが行われ、集まった白糠小学校の児童や町民から祝福の音が送られていました。

2021年シーズンの最後に白糠町にとてもうれしいニュースが飛び込んできました。白糠小学校5年生の松下一誠君が、12月27日から29日まで、福島県(郡山市・須賀川市)で行われた第30回全国小学生バドミントン選手権大会男子シングルス5年生以下の部において、見事初優勝を果たしたのです。

学校の滝川敦善校長、友人など約20人が横断幕や旗を手に出迎えました。松下君はこのときの様子を「ちよつと恥ずかしかつたけれど、みんなに迎えられてうれしかったです」と話していました。

姉の影響で始めたバドミントン

松下一誠(まつした・いっせい)君 2010年4月20日生まれ。身長154cm、体重43kg。姉の姫香さんの影響で

小学校1年生の時にバドミントンを始めました。右利きで得意なショットはスマッシュ。父親の勝至さんが運営するバドミントンチーム「(スパークージュニア)」に所属しています。

13歳以下のナショナルチームメンバーに

松下君は4年生だった2020年の全道大会シングルス(3・4年生の部)で優勝したこと、翌年のバドミントンジュニアナショナルチーム(13歳以下)の選考会に参加する権利を得ました。そして、選考会に参加した18人のうち2番目の成績で見事に合格。年3回開かれた強化練習のうち、1回目(栃木県で6月27日～7月3日まで)と3回目(富山県で11月7日～13日まで)に参加し、力を付けました。

「強化練習は5・6年生が一緒なんです。実際に6年生と練習試合ができるのは、5年生の成績上位2名だけなんです。その2名に入ることができたので『5年生だけの大会なら勝てる』という自信を

持つことができました。また、上手な6年生と試合をして、自分も同じくらい上手になりたいと思いました。結局6年生には一度も勝てなかったのですが、とても良い経験になったと思います」と、松下君は話してくれました。

チャンドラさんの影響

町のスポーツ国際交流員(SEA)マデ・チャンドラ・ベラタさん(インドネシア出身)による指導も松下君に大きな影響を与えました。松下君の父、勝至さんは「チャンドラさんのようなすばら



優勝パレードに集まった人たちに手を振る松下一誠(右)とチャンドラさん(中央)、一誠君の父親の勝至さん(左)



優勝パレード後、役場で優勝報告会が行われました。報告会で松下一誠君は「全道大会や全国大会へ出場するときに皆さんから励ましの言葉をいただきありがとうございます。今もコロナで大変な思いをしている人がたくさんいる中で、大会を開催していただいたことに感謝しています。これからも今まで以上にしっかり練習していきたいです」とあいさつしました。(写真左から)棚野町長、チャンドラさん、松下一誠君、父親の勝至さん、母親の梓さん。